



TITLE:

南露二於ケル獨逸住民(一)

AUTHOR(S):

長, 壽吉

---

CITATION:

長, 壽吉. 南露二於ケル獨逸住民(一). 經濟論叢 1918, 6(5): 731-735

ISSUE DATE:

1918-05-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127373>

RIGHT:

京都帝國大學法學大科大學

# 經濟論叢

第六卷 第五號

大正七年五月一日發行

## 論說

生產政策力分配政策力……………法學博士 河上 肇

所得稅ニ於ケル所得ノ統一課稅(一)……………法學博士 神戸 正雄

德川時代ニ於ケル封建の都市ノ發達……………法學博士 瀧本 誠一

經濟的行爲ト道德的行爲トノ關係(五)……………法學博士 田島 錦治

諾威ノ海運(一)……………法學士 小島 昌太郎

露國ニ於ケルまゝるくす說ノ發達(二)…………… 米田 庄太郎

我國<sup>ニ於ケル</sup>營利心ノ起源及發達(四、完)……………文學士 銅 直 勇

## 時事問題

日用品市場ニ就テ……………法學博士 戸田 海市

## 雜錄

南露ニ於ケル獨逸住民(二)……………文學士 長 壽 吉

續獨逸經濟學界近況(三、完)…………… 米田 庄太郎

大阪市ニ於ケル窮民ノ家計(二、完)……………法學士 櫛田 民藏

帝國統一後ノ獨逸ノ植民の活動(二、完)…………… 山本 美越乃

米國ノ戰時租稅法(三、完)……………在 米 阿部 賢一

## 雜 錄

### 南露ニ於ケル獨逸住民(二)

長 壽 吉

現今露國政府ガ獨逸ニ割讓セムトスト傳ヘラルル西北露西亞ニ於テ、ざるばつと市ノ大學ニ、從來獨逸語ヲ以テノ講義ノ多カリシ事ハ、同市ヨリ獨逸ニ留學セル學生ヨリ余ノ聞キシ所デア  
ル。彼ノ獨逸詩人ニシテ「人類ノ歴史ニ於ケル理想」ノ著者タル、へるでるガ、學校教師トシテ長日月ヲ暮シタリシリガ市、猶父翁奈ニ追ハ  
レタルはるでるぐが、一八〇四年ニ普羅西政綱ニ關スル論著ヲ草案シタシ其リガ市ニ於テハ、其狀況當ニざるばつと市ニ過クルモノアル  
可シ、露西亞ニ於ケル獨逸文化ノ浸漸ハ、實ニ意外ノモノアリテ存スルノテアル。現時大戰ノ當初、露國內ノ幾多ノ商工業會社ガ、其事務員  
或ハ技師タル獨逸人ノ歸國ノ爲ニ、工場ノ閉鎖ヲ餘義ナクセラレ、其爲ニ製造工業ニ關係深キ

近代戰爭カ、露國ノ上ニ意外ナ然シ當然ナ不利益ヲ齎シ來ツテ、延テ吾國ノ製造工業ニ影響シタ事ハ明デア  
ル。即チ露國ノ之等ノ事業ノ殆ト大部分ハ、獨逸人ニ支配セラレ、之ニ由テ運轉セラレテ居  
ツタコトヲ證スルノテアツテ、西北利亞ノ西部及露國內地ヲ旅行スル時ハ、獨逸人  
カ諸地方ニ占居シテ地方ノ經濟界ニ勢力ヲ有スルコトヲ見聞シ、又諸地方ノ商店ニ就テ、店頭  
ノ物貨カ多ク獨逸或ハ填國ニ於テ製造セラレタルモノ、或ハ獨逸製ノ語ヲ冠シ居  
ルモノ、或ハ獨逸文ヲ以テ特許ヲ標記セルモノ等ニ、屬スルコトヲ見、或ハ又甚シキハ露國字ヲ以テ普通  
ノ物貨ノ獨逸名ヲ綴リタルモノモアル。故ニ獨逸人ハ、露西亞ガ獨逸ノ經濟的發展ノ裡ニツツ  
マレテ居ルコト所謂獨逸ノ文化ノ中ニ存スルモノトシテ誇ツテ居ル。人若シ北歐ヲ旅行セバ、  
瑞典ガ全然獨逸文化ノ風靡スル所トナツテ居ル事ヲ見ルトトモニ、露西亞カヨリ以上獨逸ニ教  
ヘラレツツアルコトヲ見ルデアロウ。余ハ之ヲ感ズルゴトニ、往古獨逸民族ガ羅馬文化ノ下ニ

發達シタ其時代ノ歴史ヲ回顧シテ、其或ハ能ク似タルモノアルニ非ルカヲ問フニ堪エナカツタノデアル。故ニ余ハ爰ニ是獨逸文化ノ普及カ、遠ク夙ニ第十八世紀初期以來ノ露西亞ニ於ケル獨逸移住民ニ由テ、齋ラサレタルコトヲ考ヘヤウト思フ。而シテ第十八世紀ニ於ケル移住ハ之ヲ簡約シ、且西北部露西亞ニ於ケル獨逸住民ノ沿革ハ、現今ノ問題トシテ并ニ之ヲ略シ、爰ニハ重ニ南露黑海沿岸地方及其西北地方ノ獨逸住民ヲ説カウト思フ。蓋シ現代外交論者ノ所謂コンスタンチノールのふるガ、民族政策ノ方向線ノ交叉點ナリトセハ、南露ニ於ケル獨逸住民ハ將來ニ於ケル問題トシテ、必ス考フ可キコトト思フカラデアル。而テ現在南露獨逸住民ノ勢力或其經濟政治界ニ於ケル位置ハ、余ノ專問トスル所ニアラサルヲ以テ、余ハ唯爰ニ獨逸民ノ南露移住ノ沿革ヲ考ヘ、ソレガ同地方ニ於ケル文化ノ發達ニ關係ノ深カリシコトヲ考ヘヤウト思フノテアル。」

之ヲ歴史ニ見レハ、第十八世紀初期以來獨逸人

ハ、續々露西亞ノ内地ニ向ツテ移住シタモノデアル。蓋獨逸民族カふろいせん國ノ先導ノ下ニ次第二民族の團結ノ傾向ニ進ムタ時ニ當ツテハ國土ガ長キ宗教戰爭ノ慘害ヨリ恢復シ、殖産等ノ生氣ヲ帶ヒ來ルト共ニ人口増加モ甚シク、國外移住ノ必要モ生シテ來タノテアルガ、此國外移住ヲ内側カラ誘フタモノハ、第一ニぢゆうるどゆうわるノ説イテ居ルガ如ク、(Jules Duval-Hist. de l'émigration au 19. siècle. Par. 1862) 元來中世紀以降宗教ノ關係ナドヨリシテ、獨逸民族カ住居ヲ一定ニシナイ習慣、地域ニ對スル執着ノ心ノウスイ事等ハ、歴史のニ其民族心理ヲ形作ツテ、移住好キノ習慣ガ養ハレテ居ツタ事デアル即、所謂ルgermanische Wanderlustガ存シテ居ツタ事デアル。第二ニハ、當時歐洲一般ニ存シタ新陸地發見海外殖民ノ餘響デ、殊ニ南獨逸諸都市トれわんて商業トノ關係、又北獨逸殊ニ普羅西ニ於ケル海外交通ノ計企等カ、運命ヲ新ニ開拓セムトスル人心ヲソリ立たタ事デ、内地ノ平和ト之ニ伴フ生産カ自然地理のニ

北獨逸平野ノ殷盛ヲ來シタノニ從フテ、之ヲ通シテ'(K. Lamprecht-Deutsche Gesch. Buch 21) 一方所謂「活動アル海路」ニ向ツテ移住スルモノト、一方未開富沃ノ大陸地ニ向フモノトヲ生シタ事テアル。加之當時生産ノ多寡ヲ人口ニ省ル政策トシテ、好テ他地方ヨリノ移住者ヲ招致スル政策(Friedrichianische Politik)ガ多ク行ハレタノテアルカラ、獨逸民族ノ國外移住ハ第十八世紀以來甚多カッタ。其最モ多キハ北亞米利加デ、之ニ次ク地方ハ露西亞デアル。北亞米利加移住者ハ十八世紀ニ於テハ極メテ少數デアルガ、第十九世紀ニ於テハ激增シ、全獨逸移住民ノ殆九割ヲ占メテ居ル。(F. von Löher-Gesch. d. Deutschen in Nord-America. Leipzig, 1848) (von Koschitzky-Deut. Colonialgeschichte. Leipz. 1888) 露西亞移住者ハ既ニ其建國者ペテろ大帝時代ヨリ連續シテ、恒ニ其地理的ノ接近ニ由ル移住ノ容易ト、露西亞政府ノ内附民招致政策トニ由テ、十七八世紀以降次第ニ獨逸文化ノ露西亞輸入ヲ行フテ居ツタノテアル。」

露西亞ニ於ケル獨逸民移住ノ地域ハ、凡三方面ガアル。第一ハ西北露西亞、第二ハ中央露西亞ヲをるガ中流、第三ハ南露デアル。第十八世紀ニ於テ西北露西亞ニハ、一七六四年ニかたりな二世ノ招致ニ由テ、獨逸ウゆるてんべるく及ぶろいせん二國民凡百十家族カ、露西亞ノ首府ニ近ク定住シタコトカアル。之ハ現今猶ねわ河支流いしよら川ト云川ノ兩岸ニ、獨逸人部落ノ存シテ居ルコトデ解ル。是ノ後モ續々トばると海岸ノ地ニ、移住シ來ル獨逸民ガ甚多カッタ。人若シれえわる市附近ノ地名ヲ地圖ニ由テ檢スルナラハ、數多ノ獨逸地名ヲ發見スル、之等ハ皆當時ノ移住ノ遺跡テアル。中央露西亞ニモ同シクかたりな二世ノ招致ニ由テ、一七六三年ニ一萬五千人ノ獨逸民ガヅをるガ河中流さらどふ市附近ニ定住シテ居ル。是以後モ續々移住シテ來テ居ル故ニ、同地方ニ於テハ純獨逸名ノ地名、例バばあせる、しやつふはうせん、ちゆうりひ、りゆうつえるん等ノ地名ヲ、現今猶存シテ居ル。ばると沿岸獨逸民ハ農業又ハ機業ニ從事シ、ヅ

をるが中流ノ獨逸民ハ次第二其兩岸ヲ開墾シテ牧羊或ハ煙草等ノ栽培ニ從事シテ居ルカ、是等獨逸民カ當時未開ノ露西亞ニ開發ノ種子ヲ植タ事ハ少クナイ。之をるが中流ノ獨逸民ガ、殆終始東方ヨリ蒙古さるぎず人ノ襲來ヲ受ケテ居ツタ事ヲ以テ見レハ、當時ノ露國內ノ文化ノ程度カ解ルノテアル。(C. Huber—Auswanderungspolitik im Kgr. Württemberg; Leidig-Preuss. Auswanderungspolitik=Schriften f. Socialpolitik. 52) 而シテ西北露西亞及中央露西亞ト殆同時代ニ、南方露西亞ニモ移住スル獨逸民モアツタノデアアル即チ一七六五年ニハ四五〇人ノ獨逸民ガくりむ半島たりありあ地方ニ移住シ來リ、猶其東方ニ移動スルモノモアツタ。是等ハ南露獨逸民ノ骨子デアツテ、之等ニ誘ハレ或ハ之等ヨリ發展シテ他地方ニ移住スルモノヲ生シタノテアル。一七八三年えかてりのすらぶ市附近ニ三百二十家族ノ大集團ガ、西ぶろいせんカラ移住シテ居ル。更ニ之等ノ中ニハ南進シテけるそん市附近ニ定住シタモノモ生シタノデアアルガ、第十八世紀ニ

於テハ南露ノ獨逸民移住ハ他ノ二地方ノ如ク多クナカツタノデ、第十九世紀ニ入テ激増シタモノデアアル。以上ノ如キ第十八世紀間ニ露西亞移住ヲナセル獨逸民ハ、多クハ南方獨逸民デアツタ。當時政治ト宗教トノ關係カ猶甚シク複雑シタル南方獨逸ハ、北方獨逸ニ向テ幾多ノ移住民ヲ送り出シタガ、是等ノ南方獨逸民ハ更ニ進ンテ、露西亞ニ移住スルモノヲ生シタノデアアル。之ヲ獨逸史ニ見レハ當時ノ北方獨逸ハ、其文化ノ程度ニ於テ南方獨逸ニ劣ルコト甚シカツタ。例ハ織物業等ニ於テモ殊ニ毛織物ニ於テ南方獨逸民ノ移住者カ北方獨逸土着民ニ教フルコト甚多カツタト云フ事デアアル、之等ハ當時ノ北獨逸君主カ高級ノ文化ヲ有セル南獨人ヲ、喜テシタ理由デアアル。故ニ之等南方獨逸民ノ露西亞ニ齎シタ文化ハ、甚少カラサルモノガアルニ相違ナイ。西北露西亞ニ於ケル製造工業ノ發達ノ獨逸民ニ負フ所ハ多大ナルノミナラス、中央露西亞ニ於テ之をるが中流ノ東岸沼澤地カ牧耕地トシテ適スルニ至ツタ其開墾ハ、其殆全部ヲ獨逸

移民ノ力ニ由ツタモノト考ヘテ好イト謂フ事デ  
アル。(前記参照以外コノ續稿ニ於テ余ハ H. Leh-  
mann-Deut. Auswanderer. Berl. 1861.; S. Edwa-  
rds-The Romanoffs. Lond. 1890.; W. Roscher-  
Colonien, Colonial Politik, etc. Lpz. 1856 等ノ諸  
書ヲ参照シタリ爰ニ併記ス)